

# ～浪板海岸の再生に向けて～

## 第二回 浪板海岸砂浜再生懇談会 報告

今年度、県において、浪板海岸の砂浜再生の技術的な可能性についての調査・検討が進められています。

町は、技術的に砂浜再生が可能であると判断された場合に、円滑に工事に移行できるよう、地元関係者等が出席し、地元がどのような砂浜再生を求めているのか、どのような付帯施設が必要なのかを話し合う第2回目の懇談会を開催しました。

主な意見は下記のとおりです。



**【開催日時】** 平成 29 年 12 月 22 日 (金) 13:00～14:30 (役場 3 階中会議室)

### 【地元関係者の主な意見】

#### 地元が望む砂浜再生の範囲、方法、考え方等について

- ・人が集まるような、他にはない景色の砂浜海岸にしてほしい。
- ・さんずる屋下側から小久保海岸側までの全体を砂浜にしてほしい。
- ・最低限、震災前のように夏場は砂浜になるような海岸にしてほしい。
- ・浪板海岸はオゾン濃度が高く、従来から循環器疾患の治療に効果があると言われてきた。砂浜再生に当たっては、マリンスポーツや砂浜の散歩による『健康増進』をキーワードとすることも考慮してほしい。
- ・中途半端に砂浜をつくっても無くなる心配があるので、しっかりとした砂浜にしてほしい。
- ・サーフィンのためには、海中にブーメラン型(海岸方向に広がる形)の人工リーフを整備してもらえるとよい。
- ・砂浜再生のために海中にコンクリート構造物を入れるとしても、海面上に見える構造物はあまり景観的に良くないのではないかと。
- ・技術検討委員会の調査結果を受けて、実現可能な方法の中から相談できればよい。調査結果だけでなくどうしたら砂浜再生できるのかも教えて欲しい。
- ・ホテルに波が直接当たるのはどうかして欲しい。

#### 砂浜再生をする場合に併せて整備が必要な付帯施設について

- ・トイレ、監視所は必要である。
- ・民間の施設は、にぎわいが戻れば再建されるだろう。全体としては、町が整備する施設に限らず、震災前にあった施設は、復旧してほしい。

#### 砂浜再生の有無にかかわらず整備が必要な付帯施設について

- ・キャンプ場があればうれしい。現状では芝生広場にテントを設営してキャンプをしている人がいる。
- ・浪板海岸付近の国道45号を挟んだ山側(ボックスカルバートを抜けた先)は町有地なのでそちらに駐車場を整備してもらえたらいい。
- ・園地内の道路の位置が現地で分からない。道路の位置はわかるようにしてほしい。

#### 【今後の取組について】

砂浜再生に係る技術検討の結果は、今年3月に開催予定の技術検討委員会において判断される予定となっています。町は、今回懇談会でいただいた意見を、技術検討委員会へ報告し、できるだけ地元の意見をくみ取ってもらえるような結果となるように取り組んでいきます。



### 12月20日 町方地区復興関連事業引き渡し式を開催



12月20日(水)、土地区画整理事業や災害公営住宅の建設工事などを進めてきた独立行政法人都市再生機構(U R 都市機構)の大槌町での全ての工事が完了し、引き渡し式が行われました。U R 都市機構は、町内8地区で計243戸の災害公営住宅を建設したほか、復興市街地整備事業では、

町方地区の土地区画整理事業、防災集団移転促進事業、津波復興拠点整備事業などを受託し、復興加速化を担ってきました。式では、目録が引き渡され、平野町長からは感謝状が贈られました。

### 1月7日 火災の無い平和な一年に～平成30年大槌町消防団防火祈願～



毎年の初めに、町内の防火を願って行われる大槌町消防団防火祈願が1月7日(日)、小鉦神社で行われました。境内には、大槌町消防団の各分団、婦人消防協力隊の面々や消防車両が揃い、越田政美消防団長を筆頭に1年の安全を祈りました。訓示の中で、平野町長は、「今後益々多様化する災害対応、町民の安心・安全に応えるため、栄えある伝統を引き継ぎ、地域防災の中核として精進してほしい」と述べ、消防団への期待と信頼を表しました。



### 12月22日 Jリーガー 小笠原満男選手と交流～グリーティングDAY in 岩手～

12月22日(金)、日本プロサッカー選手会を代表し、Jリーグ鹿島アントラーズの小笠原満男選手ら6名の現役選手やOBの方々が、平野町長を表敬訪問しました。その後、チャリティイベントとして、町内のサッカー部、スポ少に所属する児童生徒50名と交流し、ミニゲームなどを通じてふれあいました。小笠原選手はイベント後、「みんな楽しそうにやってくれて、僕たちも楽しめました。大変だったと思うけれど、こういうグラウンドでサッカーができる事に感謝してプレーしてほしい。今日の子たちから、日本代表になる子が出るように、頑張してほしいです。」と子どもたちにエールをおくりました。



### 1月11日 災害時の歯科医療救護活動に関する協定を締結

1月11日(木)、釜石歯科医師会との「災害時の歯科医療救護活動に関する協定」の締結式が行われました。釜石歯科医師会の工藤会長は、「震災後の5月、大槌町では当時の4名の先生方により、県内で最初の無料仮設診療所を開設した。開業医の先生が同じ場所で診療することは他に例が無く、苦勞があったと思う。今回の協定により、当時からあった協力体制がより明確に文書化された。今後にとって重要なことだと理解している」と述べました。町長はあいさつで、震災当時の身元確認や仮設診療などの尽力に感謝するとともに、本協定の締結による関係強化への喜びを語りました。

